

日本キリスト教団塚口教会

Church College III

いざな
キリスト教文学への誘い

ダイアローグ
—近代日本文学とキリスト教の対話—

全3回講座 2019年2月9日～2019年11月9日

私たちが親しんできた近代以降の日本文学は、その多くが、キリスト教と深く関わり、様々な影響を受けてきました。そうした中から皆さんがよくご存じの作家と作品を取り上げて、それらが日本人の生き方や考え方にどのような影響を与えてきたかを共に学び、そのことを通して、より深く親しむことが出来ればと願っています。

第3回講座 2019年11月9日(土)午後2時～4時

太宰治文芸とキリスト教

—『正義と微笑』を中心に—

細川 正義先生 関西学院大学名誉教授



プロフィール

1948年香川県生まれ。関西学院大学文学研究科博士課程後期課程満期退学後、熊本・九州女学院短期大学教授を経て関西学院大学文学部教授、2017年3月定年退職。博士(文学)現在、日本キリスト教文学会関西支部長、鳥崎藤村学会会長、他。

著書『鳥崎藤村文芸研究』(2013年8月、双文社出版)、

『文芸の栞 近代文学点描』(2018年3月、鼎書房)他。

講演要旨

「聖書一巻によりて、日本の文学史は、かつてなき程の鮮明さをもて、はっきりと二分されている。」は太宰治の『HUMAN LOST』(1936)の中の一文です。佐古純一郎が「近代以降の作家の中で、太宰治くらい真剣に、そして熱心に聖書を読んだ人はいなかったであろう。」と述べたように、彼の文学にはキリスト教が強く影響を与えています。

『正義と微笑』(1942)のタイトルは太宰が好んで読んだマタイによる福音書6章16～18節から導き出した言葉です。聖書に癒され、聖書に問いかけながら人生を切りひらいていく主人公に焦点を当てながら、太宰文芸の意義と魅力を探っていきます。

どなたでもお越し下さい。

無料

次回Church College IVは「関西ゆかりのキリスト教伝来期の人物、文化人」をテーマに開催予定です。

日本キリスト教団 塚口教会

〒661-0012 尼崎市南塚口町2-34-3

Tel 06-6429-3019

阪急塚口駅南へ300m(徒歩約5分)

2つ目の信号を右(西)、(園田学園高校東側)

